

日本の地域で暮らす高齢者の中医体質と五情反応 (怒・喜・思・憂・恐) との関係性

鄒 倭 倭
呉 小 玉
清 水 房 枝
細 川 昌 則

キーワード：高齢者、五情反応、中医体質

要旨

本研究は、日本の、地域で暮らす高齢者の中医体質と五情反応（怒・喜・思・憂・恐）との関係性を明らかにすることを目的とした。高齢者 184 名を対象に、中医体質及び五情反応の評価用紙を用いて調査した。

データの分析より、9 種類の中医体質のうち、「平和体質」は五情反応に対してやや強い正の影響を示し、他の 8 種類の体質は五情反応に対して負の影響を示し、平和体質は五情反応の保護因子であることが明らかになった。気鬱体質は五情反応に対して強い負の影響を示した。このことは、気鬱体質を改善することにより五情反応を改善できる可能性を示唆している。また、気鬱体質以外の中医体質では、陽虚体質、気虚体質も五情反応に関連していることが明らかになった。

1. 緒言

内閣府の障害者白書（2023）には、身体障害、知的障害、精神障害の 3 区分について、厚生労働省調査の基本的な統計数値が掲載されている。これによると、精神障害者は 614 万 8 千人となっており、そのうち、65 歳以上の高齢者は 205 万 6 千人（35.1%）となっている。西村（2019）は、一般に高齢者の三大精神障害は認知症、せん妄、うつであると述べている。WHO（2023）によると、現在全世界では認知症は 5500 万人を超え、毎年 1000 万人ずつ増加している。また、高齢者のうつ病の特徴として、症状がそろっていないうつ病の頻度が高く見逃されやすい、器質的原因ならばに薬物起因性のうつ病は若年者よりも多く、さらに、

脳血管性病変に関連する「血管性うつ病」の存在が考えられており、脳血管障害の患者はうつ病になる可能性が高いことが指摘されている。先行研究において、MCI（MCI：Mild Cognitive Impairment、軽度認知障害以下 MCI）はうつ状態やアパシーを合併する割合が高いことが報告されている（Sultzer ら 1993）。

先行研究では、情緒や精神機能の評価は、うつやアパシー検査など部分的な評価であり、「怒・喜・思・憂・恐」という人間のホリスティックな情緒の評価が見当たらなかった。情緒と中医体質との相関の研究もほとんど行われていない。

中医学において、人体は複雑な統一体であり、臓器は一つ一つの単体で動いているのではなく、互いに作用し、調和することにより生命活動を維持している。そして、人体は一つの統一された整体であり、外界や自然環境とは密接な関係があると考えられている。中医学では、「陰陽五行説」を用いて五臓六腑の形態だけではなく、人の意識・思考・精神・情緒などの関係を見る際にも同様に考える。呉（2020）は、人の意識（情緒反応を含む）などの精神活動は、五臓六腑の生理活動が正常であれば正常に働くこと、人の五臓である肝・心・脾・肺・腎はそれぞれ、怒・喜・思・憂・恐という五情を司ること、一方五情は、五臓の機能を維持するために重要な役割を果たしていること、人は五情が過激化し、生理的な調節範囲を超えると、体の内的バランスが崩れ、疾病が発生することを述べている。呉、鄒、何ら（2023）、はこれに基づき、「中医五情の測定尺度」を開発した（Wu, X., Zou, J., He, Z. et al., 2023）。

また、中医学では、古来より人を陰と陽の体質によって 25 種類の「中医体質」に区分してきた。王（2005）は、これに基づき、中医体質を 9 種類に分類し、それ

ぞれの体質に合わせて自己診断法や健康指導の方法を開発した。さらに、「体質可分論（人を体質によって分類することができるという意味）」、「体病相関論（体質と疾病は関係するという意味）」、「体質可調論（体質は健康養生法によって改善できるという意味）」という三つの理論を提唱した。また、体質は先天的にも後天的にも相互に関係して一定の安定性を示すが、人体の内外の環境の変化に応じて変化させることができると述べた（王、2008）。中国衛生部中華中医薬学会（2009）はこの報告を認め、「中医体質の分類と判定」表により体質を中医体質9種類に分類すると発表した。その分類と判定表では、中医体質9種類（以下体質9種類）は、健康体質（平和体質）と8種類の偏向体質（陽虚体質・気虚体質・陰虚体質・痰湿体質・湿熱体質・血瘀体質・気鬱体質・特禀体質）に分けられている。先行研究では、人の体質は情緒の変化により変えることができることが示された（夏、2014）。徐、嚴、呉ら（2010）は、情緒の調整によりうつ傾向を改善できることを明らかにした。藍、莫、孟（2020）の研究では、五情看護（五情看護とは、主に臨床看護師の気質・態度・行動および言葉などの要素を通じて、患者の不安や抑うつの情緒を改善することである。）は認知症のうつと躁鬱状況を改善できることを明らかにした。邵、陳、張ら（2017）の研究では、脳トレーニングなどのゲームにより認知症の情緒コントロール力を改善できることがわかった。これらの研究結果から、情緒の変化および中医体質を明らかにすることによりMCIを早期発見し、五情反応の調整や中医体質の調整によりMCI症状を改善できる可能性が示されるが、しかし、先行研究では、中医体質と五情反応の関係性の研究はほとんど行われていなかった、したがって、中医体質と中医五情の情緒反応の関係性を解明することにより、今後中医体質や五情反応の改善を通して疾病の予防や疾患を早期発見することなどにエビデンスを提供できると考える。

II. 研究方法

1. 研究対象

K市U区在住の65歳以上の高齢者184名。

2. 研究協力者の選定方法

研究協力者の選定は、地域で開催される集会や講演会などの開催者を訪問し、質問用紙を配布させて頂くことが可能であるかどうか相談し、承諾を得て、質問用紙を配布した。または地域住民の福祉関連の施設などを訪問し、責任者へ本研究の趣旨について口頭及び文書で説明の上、研究協力の承諾を得て、質問用紙を配布した。

3. 調査内容

- (1) 研究協力者の基本属性：年齢、性別、同居者の有無、婚姻状況、健康診断の頻度、居宅サービス利用状況。
- (2) 五情反応
本研究において測りたい情緒反応は、怒・喜・思・憂・恐によって代表される感情群の情緒反応バランスを保つ程度を指す。怒・喜・思・憂・恐の情緒反応の状態を表1に示す。呉、鄒、何ら（2023）が中医学の形神一体観に基づき開発した「中医五情の測定尺度」を用いた（Wu, X., Zou, J., He, Z. et al., 2023）。

表1 中医五情を表現する情緒

五情	中医五情を表現する情緒
怒	怒り、不快など
喜	喜び、楽しみ、快楽、愉快
思	思慮、考え、思い、欲など
憂	悲しみ、憂いなど
恐	恐怖、驚きなど

(3) 中医体質

本研究では、日本語版中医体質の分類と判定表を用いた。王（2005）は中医学と陰陽五行説により、健康体質と呼ばれる平和体質と未病体質と呼ばれる偏向体質8種類（陽虚体質・気虚体質・陰虚体質・痰湿体質・湿熱体質・血瘀体質・気鬱体質・特禀体質）の9種類の中医体質を定義した。中華中医薬学会（2009）は「中医体質分類と判定表」という9種類の中医体質の分類方法及び判定基準を公表した。日本語版中医体質の分類と判定表は朱、折笠、上馬ら（2008）が翻訳し開発した。すでに信頼性と妥当性は確認されている（朱ら、2008）。研究者は尺度の開発者の朱より使用許諾を得た。

4. 調査期間

令和4年3月～8月。

5. データの分析方法

データの分析は、「日本語版 IBM SPSS Statistics 28」を用い、年齢・性別による中医体質の違いについては Mann-Whitney's U 検定、各情緒反応による中医体質の違いについては Kruskal Wallis のカイ 2 乗検定、および情緒反応と中医体質の関連性については、回帰分析と相関分析を行った。危険率 5% 未満の検定結果を有意であるとした。

6. 倫理的な配慮

本研究は、研究者が所属する京都光華女子大学大学院看護学研究科研究倫理審査委員会から承認を得た。承認番号は 21MM5（2022 年 3 月 21 日承認）である。調査には切手付きの返信封筒を同封し、質問用紙を配布した、無記名の回答を郵送返信してもらった。投函したことで同意とみなした。質問票には氏名、住所は記載されていないため、ID 番号を付して以後の解析に用いた。

III. 結果

アンケートの配布数は 300 通で回収は 184 通であった。回収率は 61.3% であった。

1. 高齢者の属性

研究への協力を得た高齢者は 184 名で、そのうち男性は 41 名 (22.3%)、女性は 143 名 (77.7%) であった。年齢は 65 歳から 97 歳まで、平均年齢は 78.9 歳であった。回答者の属性は表 2 に示したように、性別は女性が、婚姻状況は既婚が、健康診断の頻度は年 1 回受診する者が、居宅サービス利用状況は利用していない者が多かった。同居者の有無に関しては、同居者がいない割合がやや高く、107 名であり、58.15% を占めていた。

2. 中医体質の判定

「中医体質分類と判定表」は、全体で 60 項目の質問になる。1 種類の中医体質には 7 項目から 9 項目の質問があり、異なる種類の中医体質に同じ項目を重複して用いるものがある。

各項目に対して「まったくない」「まれにある」「ときどきある」「よくある」「いつもある」の 5 段階の回答形式とし、それぞれ 1 点から 5 点とした。9 種類の中医体質を判定する中医体質評価計算式は、 $[(\text{項目の合計点数} - \text{項目数}) / (\text{項目数} \times 4)] \times 100$ である、合計点数は 0 点から 100 点の範囲である。

平和体質は 60 点以上、他の 8 種類の偏向体質は 40 点以上であれば、その中医体質に該当すると判定する。ひとりの対象者が同時に 2 種類以上の中医体質を持つことがある。9 種類の中医体質は、得点が高いほど明確になる。

平和体質の判定に関しては、平和体質の得点が 60 点以上且つ、他の 8 種類の偏向体質の得点がいずれの体質も 30 点未満の場合平和体質と判定される。

偏向体質の判定に関しては、平和体質の得点が 60 点以上で、ほかの 8 種類の偏向体質のいずれかが 40 点以上であれば、偏向体質と判定される。平和体質の得点が 60 点以上、偏向体質の得点が 30 点以上の場合、偏向体質の中の一番高い得点の体質と判定する。平和体質の得点が 60 点未満で、ほかの 8 種類の偏向体質の得点が 30 点以上 40 点未満であれば偏向体質傾向と判定される。

本研究では、研究分析を容易にするため、平和体質傾向も平和体質と判定した、偏向体質傾向は偏向体質と判定した。また、上記条件を満たす偏向体質が併存する場合があった。

表 2 高齢者の基本属性

項目	N = 184		
	最大	最小	平均
年齢	97歳	65歳	78.9歳 (SD ± 6.87)
性別	男性	41	22.28%
	女性	143	77.72%
婚姻状況	既婚	147	79.89%
	離婚	11	5.98%
	独身	26	14.13%
同居者の有無	有	77	41.85%
	無	107	58.15%
健康診断頻度	年1回	145	78.80%
	2年1回	11	5.98%
	不定	28	15.22%
居宅サービス利用状況	無	134	72.83%
	週1回利用	9	4.89%
	週2回利用	6	3.26%
	週3回以上利用	35	19.02%

(2) 日本語版中医体質分類と判定表の信頼性分析

日本語版「中医体質分類と判定表」に関する測定尺度として使用可能かどうか、信頼性を確保するため内的整合性の検討を行った。内的整合性を Cronbach's α

係数及び項目の全体から一つ一つ項目の削除した時の Cronbach's α 係数 (I-T 相関) の算出で検討した。結果は表 3-2 で示すように、項目全体の Cronbach's α は 0.94 であった。項目ごとに削除・追加しても α 係数は

表 3-2 日本語版「中医体質分類と判定表」の信頼性分析

中医体質項目	I-T correlation	if Item Deleted (α)
1.いつも元気がある.	-0.33	0.94
2.自然環境や社会環境の変化に順応できる.	-0.20	0.94
3.不眠になりやすい.	0.28	0.94
4.冬の寒さや夏の冷房に弱い.	0.46	0.94
5.疲れやすい.	0.49	0.94
6.声が低く小さい.	0.48	0.94
7.物忘れがしやすい.	0.40	0.94
8.気分が落込みやすい.	0.46	0.94
9.手足が冷たい.	0.49	0.94
10.お腹、背中、腰膝が冷える.	0.60	0.94
11.寒がりやで、人より厚着をする.	0.55	0.94
12.冷たいものを食べたり、飲んだりすると、体調が崩れやすい.	0.50	0.94
13.体が冷えると、下痢になりやすい.	0.46	0.94
14.風邪を引きやすい.	0.49	0.94
15.呼吸が荒く、短い.	0.60	0.94
16.心臓がどきどきしやすい.	0.49	0.94
17.めまいや立ちくらみを起こしやすい.	0.44	0.94
18.物静かで人と話すのが苦手.	0.24	0.94
19.汗がかきやすい.	0.28	0.94
20.手掌と足の裏が熱い.	0.34	0.94
21.体や顔にほてりを感じる.	0.39	0.94
22.皮膚や唇が乾燥しやすい.	0.52	0.94
23.唇の色が普通より紅い.	0.34	0.94
24.便秘になりやすい.	0.40	0.94
25.顔が紅潮しやすい.	0.52	0.94
26.目が乾きやすい.	0.58	0.94
27.喉が渇きやすく、水を飲みたがる.	0.45	0.94
28.胸がつかえるような不快感や、お腹が張ったような感じがある.	0.59	0.94
29.体がだるく、すっきりしない.	0.58	0.94
30.腹部が柔らかく、贅肉が多い.	0.45	0.94
31.おでこが油っぽい.	0.47	0.94
32.まぶたが腫れぼったい.	0.45	0.94
33.口の中にねばねば感がある.	0.64	0.94
34.痰が多く、喉に痰が詰っている感じがする.	0.49	0.94
35.舌苔が厚い.	0.46	0.94
36.顔全体、特に鼻が脂っぽい.	0.49	0.94
37.ニキビがでやすい.	0.45	0.94
38.口の中が苦く、口臭を感じる.	0.62	0.94
39.排便がすっきりせず、粘々状のウンチが多い.	0.58	0.94
40.オシッコの色が濃く、排尿のとき尿道が熱く感じる.	0.45	0.94
41.(女性) 下物が黄色っぽい、(男性) 陰囊が湿っぽい.	0.47	0.94
42.皮膚に青あざがでやすい.	0.45	0.94
43.顔に毛細血管が透けて見える.	0.42	0.94
44.体のどこかに痛みを感じる.	0.47	0.94
45.顔色がくすみがちで、シミが出やすい.	0.56	0.94
46.目の下にクマがある.	0.47	0.94
47.唇の色が暗い.	0.50	0.94
48.緊張しやすく、イライラしやすい.	0.60	0.94
49.感傷的で、涙もろい.	0.47	0.94
50.怖がりやで、ビクビクしやすい.	0.43	0.94
51.脇の下または乳房に張るような痛みがある.	0.45	0.94
52.ため息をよくつく.	0.49	0.94
53.喉に異物感がある.	0.58	0.94
54.風邪ではないのに、くしゃみがでる.	0.51	0.94
55.日常的な鼻づまりや鼻水.	0.47	0.94
56.季節・温度・匂いの変化に伴う咳き込み.	0.51	0.94
57.アレルギー反応がある(薬、食物、匂い、花粉、季節変化).	0.31	0.94
58.皮膚の一部に痒みを伴う赤みができ、しばらくすると消える事がある.	0.45	0.94
59.皮膚の一部が赤くなり斑点状や地図状に広がる事がある.	0.45	0.94
60.皮膚を掻くとすぐ赤くなり掻き痕が残り易い.	0.51	0.94
項目全体 α		0.94

0.94 であった。各項目の I-T 相関係数は $-0.33 \sim 0.64$ であった。羽山（1989）によると、内的整合性が示されるためには α 係数 0.7 以上が必要である。本研究では、その基準値を上回っていたことから、項目がそれぞれ適切に作動していると考えられた。以上から日本語版「中医体質分類と判定表」の信頼性が示された。

(3) 中医体質度数分布

表 3-3 中医体質分布表

中医体質分布	N = 184	%
1. 平和体質	70	38
2. 陽虚体質	41	22.3
3. 気虚体質	10	5.4
4. 陰虚体質	18	9.8
5. 痰湿体質	7	3.8
6. 湿熱体質	3	1.6
7. 血瘀体質	19	10.3
8. 気鬱体質	7	3.8
9. 特禀体質	9	4.9

研究協力者 184 名を「中医体質の分類と判定基準」で中医体質を分類した。そのうち健康体質と呼ばれる平和体質は 70 名（38.0%）、未病体質と呼ばれる偏向体質は 114 名（62%）を占めていた。

3. 年齢・性別による中医体質の違い

男女が持つ 9 種類の体質の違いを調べるために、各体質の得点について Mann-Whitney の U 検定を行った。陽虚体質、陰虚体質、湿熱体質、気鬱体質、特禀体質の 5 種類は、男女の間に差がなかった。平和体質の中の、「5. 疲れやすい。」の項目の得点は男性が有意に高かった ($p < 0.05$)。気虚体質の中の、「16. 心臓がドキドキしやすい。」の項目の得点は女性が有意に高かった ($p < 0.05$)。痰湿体質の中の、「32. 胸がつかえるような不快感や、お腹が張ったような感じがある。」の項目の得点は女性が有意に高かった ($p < 0.05$)。「35. おでこが油っぽい。」の項目の得点は男性が有意に高かった ($p < 0.05$)。血瘀体質の中の、「47. 顔に毛細血管が透けて見える。」の項目の得点は男性が有意に高かった ($p < 0.05$)。「49. 顔色がくすみがちで、シミが出やすい。」の項目の得点は女性が有意に高かった ($p < 0.05$)。

四分位法により年齢 65 歳～74 歳までを年齢低群（48 名）、84 歳以上を年齢高群（47 名）の 2 群に分けて、各体質の得点について Mann-Whitney の U 検定を行った。平和体質、陽虚体質、陰虚体質、気鬱体質、特禀体質の 5 種類の体質には、有意な年齢差が見られなかった。気虚体質の中の「23. 汗がかきやすい。」の項目の得点は、年齢低群が有意に高かった ($p < 0.05$)。陰虚体質の中の「29. 顔が紅潮しやすい。」の項目の得点は、年齢低群が有意に高かった ($p < 0.05$)。痰湿体質の中の「34. 腹部が柔らかく、贅肉が多い。」と「35. おでこが油っぽい。」の二つの項目の得点は年齢低群が有意に高かった ($p < 0.05$)。湿熱体質の中の「40. 顔全体、特に鼻が脂っぽい。」の項目の得点は、年齢低群が高かった ($p < 0.05$)。（表 4）

表 4 年齢・性別による中医体質の違い

中医体質各項目	All		年齢低群 (年齢≦74歳) N=48		年齢高群 (年齢≧84歳) N=47		Mann-Whitney		男性 N=41		女性 N=143		Mann-Whitney	
	MEAN	SD	平均ラン ク	順位和	平均ラン ク	順位和	Z	P	平均ラン ク	順位和	平均ラン ク	順位和	Z	P
平和体質	63.77	17.31	45.92	2204.00	50.13	2356.00	-0.75	0.46	100.09	4103.50	90.33	12916.50	-1.04	0.30
1.いつも元気がある.	3.80	1.09	44.08	2116.00	52.00	2444.00	-1.46	0.15	96.93	3974.00	91.23	13046.00	-0.64	0.52
2.自然環境や社会環境の変化に順応できる.	3.89	1.13	46.80	2246.50	49.22	2313.50	-0.45	0.66	95.37	3910.00	91.68	13110.00	-0.41	0.68
3.不眠になりやすい.	3.39	1.37	46.51	2232.50	49.52	2327.50	-0.55	0.59	106.13	4351.50	88.59	12668.50	-1.91	0.06
4.冬の寒さや夏の冷房に弱い.	2.98	1.31	45.15	2167.00	50.91	2393.00	-1.05	0.29	93.62	3838.50	92.18	13181.50	-0.16	0.88
5.疲れやすい.	3.27	1.22	46.25	2220.00	49.79	2340.00	-0.65	0.52	107.65	4413.50	88.16	12606.50	-2.13	0.03
6.声が低く小さい.	4.01	1.15	46.64	2238.50	49.39	2321.50	-0.51	0.61	95.26	3905.50	91.71	13114.50	-0.40	0.69
7.物忘れがしやすい.	3.36	1.05	50.32	2415.50	45.63	2144.50	-0.88	0.38	97.43	3994.50	91.09	13025.50	-0.71	0.48
8.気分が落ち込みやすい.	3.72	1.15	46.64	2238.50	49.39	2321.50	-0.51	0.61	92.23	3781.50	92.58	13238.50	-0.04	0.97
陽虚体質	33.29	22.15	49.43	2372.50	46.54	2187.50	-0.51	0.61	84.51	3465.00	94.79	13555.00	-1.09	0.28
9.手足が冷たい.	2.79	1.42	48.08	2308.00	47.91	2252.00	-0.03	0.98	84.57	3467.50	94.77	13552.50	-1.11	0.27
10.お腹、背中、腰膝が冷える.	2.40	1.27	48.08	2308.00	47.91	2252.00	-0.03	0.98	78.41	3215.00	96.54	13805.00	-1.99	0.05
11.寒がりて、人より厚着をす.	2.52	1.36	48.11	2309.50	47.88	2250.50	-0.04	0.97	88.40	3624.50	93.67	13395.50	-0.58	0.57
12.冬の寒さや夏の冷房に弱い.	3.02	1.31	50.85	2441.00	45.09	2119.00	-1.05	0.29	91.38	3746.50	92.82	13273.50	-0.16	0.88
13.冷たいものを食べたり、飲んだりすると、体調が崩れやすい.	1.98	1.20	51.38	2466.00	44.55	2094.00	-1.31	0.19	82.23	3371.50	95.44	13648.50	-1.50	0.13
14.体が冷えたと、下痢になりやすい.	1.88	1.22	50.14	2406.50	45.82	2153.50	-0.83	0.41	97.62	4002.50	91.03	13017.50	-0.77	0.45
15.風邪を引きやすい.	1.72	1.00	50.45	2421.50	45.50	2138.50	-0.98	0.33	90.67	3717.50	93.02	13302.50	-0.28	0.78
気虚体質	26.68	16.28	51.24	2459.50	44.69	2100.50	-1.16	0.25	93.50	3833.50	92.21	13186.50	-0.14	0.89
16.疲れやすい.	2.73	1.22	49.75	2388.00	46.21	2172.00	-0.65	0.52	77.35	3171.50	96.84	13848.50	-2.13	0.03
17.呼吸が荒く、短い.	1.79	1.04	48.70	2337.50	47.29	2222.50	-0.27	0.79	97.70	4005.50	91.01	13014.50	-0.78	0.44
18.心臓がどきどきしやすい.	1.94	1.05	47.67	2288.00	48.34	2272.00	-0.13	0.90	91.37	3746.00	92.83	13274.00	-0.17	0.87
19.めまいや立ちくらみを起こしやすい.	2.06	1.18	47.50	2280.00	48.51	2280.00	-0.19	0.85	96.51	3957.00	91.35	13063.00	-0.58	0.56
20.風邪を引きやすい.	1.72	1.00	50.45	2421.50	45.50	2138.50	-0.98	0.33	90.67	3717.50	93.02	13302.50	-0.28	0.78
21.物静かで人と話すのが苦手.	1.97	1.12	52.01	2496.50	43.90	2063.50	-1.52	0.13	103.96	4262.50	89.21	12757.50	-1.66	0.10
22.声が低く小さい.	1.99	1.15	49.36	2369.50	46.61	2190.50	-0.51	0.61	89.74	3679.50	93.29	13340.50	-0.40	0.69
23.汗がかきやすい.	2.34	1.21	54.35	2609.00	41.51	1951.00	-2.35	0.02	89.48	3668.50	93.37	13351.50	-0.43	0.67
陰虚体質	28.79	19.19	51.49	2471.50	44.44	2088.50	-1.25	0.21	91.23	3740.50	92.86	13279.50	-0.17	0.86
24.手掌と足の裏が熱い.	1.89	1.12	50.86	2441.50	45.07	2118.50	-1.10	0.27	86.95	3565.00	94.09	13455.00	-0.82	0.42
25.体や顔にほてりを感じる.	1.80	0.96	51.03	2449.50	44.90	2110.50	-1.15	0.25	93.46	3832.00	92.22	13188.00	-0.14	0.89
26.皮膚や唇が乾燥しやすい.	2.52	1.31	49.88	2394.00	46.09	2166.00	-0.69	0.49	90.96	3729.50	92.94	13290.50	-0.22	0.83
27.唇の色が普通より紅い.	1.80	1.01	49.53	2377.50	46.44	2182.50	-0.59	0.56	99.65	4085.50	90.45	12934.50	-1.06	0.29
28.便秘になりやすい.	2.54	1.52	50.36	2417.50	45.59	2142.50	-0.88	0.38	84.43	3461.50	94.81	13558.50	-1.14	0.25
29.顔が紅潮しやすい.	1.93	1.16	53.49	2567.50	42.39	1992.50	-2.10	0.04	99.13	4064.50	90.60	12955.50	-0.97	0.33
30.目が乾きやすい.	2.35	1.40	52.26	2508.50	43.65	2051.50	-1.57	0.12	85.51	3506.00	94.50	13514.00	-0.99	0.32
31.喉が渇きやすく、水を飲みたがる.	2.37	1.26	49.68	2384.50	46.29	2175.50	-0.62	0.54	101.00	4141.00	90.06	12879.00	-1.20	0.23
痰湿体質	25.70	18.42	51.50	2472.00	44.43	2088.00	-1.25	0.21	91.07	3734.00	92.91	13286.00	-0.20	0.85
32.胸がつかえるような不快感や、お腹が張ったような感じがある.	2.02	1.21	48.32	2319.50	47.67	2240.50	-0.12	0.90	77.74	3187.50	96.73	13832.50	-2.14	0.03
33.体がだるく、すっきりしない.	2.27	1.29	51.13	2454.00	44.81	2106.00	-1.16	0.25	94.30	3866.50	91.98	13153.50	-0.26	0.80
34.腹部が柔らかく、贅肉が多い.	2.54	1.25	53.67	2576.00	42.21	1984.00	-2.07	0.04	80.06	3282.50	96.07	13737.50	-1.75	0.08
35.おでこが油っぽい.	1.70	0.94	53.85	2585.00	42.02	1975.00	-2.32	0.02	110.11	4514.50	87.45	12505.50	-2.66	0.01
36.まぶたが腫れぼったい.	1.82	1.18	50.90	2443.00	45.04	2117.00	-1.14	0.25	80.29	3292.00	96.00	13728.00	-1.84	0.07
37.口の中にねばねば感がある.	2.17	1.16	49.78	2389.50	46.18	2170.50	-0.67	0.51	95.61	3920.00	91.61	13100.00	-0.44	0.66
38.痰が多く、喉に痰が詰まっている感じがする.	1.96	1.21	48.24	2315.50	47.76	2244.50	-0.09	0.93	97.65	4003.50	91.02	13016.50	-0.75	0.45
39.舌苔が厚い.	1.74	1.03	47.86	2297.50	48.14	2262.50	-0.05	0.96	96.10	3940.00	91.47	13080.00	-0.54	0.59
湿熱体質	16.44	16.47	52.30	2510.50	43.61	2049.50	-1.55	0.12	99.67	4086.50	90.44	12933.50	-0.99	0.32
40.顔全体、特に鼻が脂っぽい.	1.72	0.96	56.03	2689.50	39.80	1870.50	-3.14	0.00	104.52	4285.50	89.05	12734.50	-1.81	0.07
41.ニキビがでやすい.	1.39	0.76	52.04	2498.00	43.87	2062.00	-1.88	0.06	100.99	4140.50	90.07	12879.50	-1.49	0.14
42.口の中が苦く、口臭を感じる.	1.84	1.06	52.81	2535.00	43.09	2025.00	-1.88	0.06	93.61	3838.00	92.18	13182.00	-0.17	0.87
43.排便がすっきりせず、粘々状のウンチが多い.	1.85	1.03	48.10	2309.00	47.89	2251.00	-0.04	0.97	98.30	4030.50	90.84	12989.50	-0.86	0.39
44.オシッコの色が濃く、排尿のとき尿道が熱く感じる.	1.57	0.94	47.94	2301.00	48.06	2259.00	-0.03	0.98	99.34	4073.00	90.54	12947.00	-1.10	0.27
45.(女性)下物が黄色っぽい。(男性)陰囊が湿っぽい.	1.58	0.91	51.07	2451.50	44.86	2108.50	-1.27	0.20	102.80	4215.00	89.55	12805.00	-1.64	0.10
血瘀体質	28.34	18.42	47.59	2284.50	48.41	2275.50	-0.15	0.88	85.27	3496.00	94.57	13524.00	-0.99	0.32
46.皮膚に青あざがでやすい.	1.94	1.20	44.98	2159.00	51.09	2401.00	-1.16	0.25	87.34	3581.00	93.98	13439.00	-0.76	0.45
47.顔に毛細血管が透けて見える.	1.49	0.92	45.91	2203.50	50.14	2356.50	-0.88	0.38	107.21	4395.50	88.28	12624.50	-2.45	0.01
48.体のどこかに痛みを感じる.	2.61	1.41	49.00	2352.00	46.98	2208.00	-0.37	0.71	92.21	3780.50	92.58	13239.50	-0.04	0.97
49.顔色がくすみがちで、シミが出やすい.	2.38	1.24	48.58	2332.00	47.40	2228.00	-0.22	0.83	75.21	3083.50	97.46	13936.50	-2.44	0.02
50.目の下にクマがある.	2.03	1.21	51.27	2461.00	44.66	2099.00	-1.23	0.22	79.27	3250.00	96.29	13770.00	-1.92	0.06
51.物忘れがしやすい.	2.64	1.05	45.68	2192.50	50.37	2367.50	-0.88	0.38	87.57	3590.50	93.91	13429.50	-0.71	0.48
52.唇の色が暗い.	1.83	1.06	47.41	2275.50	48.61	2284.50	-0.23	0.82	92.89	3808.50	92.39	13211.50	-0.06	0.95
気鬱体質	28.34	18.42	47.59	2284.50	48.41	2275.50	-0.15	0.88	85.27	3496.00	94.57	13524.00	-0.99	0.32
53.気分が落ち込みやすい.	2.28	1.15	49.36	2369.50	46.61	2190.50	-0.51	0.61	92.77	3803.50	92.42	13216.50	-0.04	0.97
54.緊張しやすく、イライラしやすい.	2.24	1.17	53.08	2548.00	42.81	2012.00	-1.88	0.06	94.96	3893.50	91.79	13126.50	-0.35	0.73
55.感傷的で、涙もろい.	2.74	1.26	46.98	2255.00	49.04	2305.00	-0.38	0.71	95.07	3898.00	91.76	13122.00	-0.36	0.72
56.佈がりて、ピクピクしやすい.	2.20	1.14	48.05	2306.50	47.95	2253.50	-0.02	0.98	87.46	3586.00	93.94	13434.00	-0.72	0.47
57.脇の下または乳房に張るような痛みがある.	1.36	0.81	48.93	2348.50	47.05	2211.50	-0.44	0.66	93.02	3814.00	92.35	13206.00	-0.10	0.92
58.ため息をよくつく.	1.89	1.03	48.94	2349.00	47.04	2211.00	-0.36	0.72	91.70	3759.50	92.73	13260.50	-0.12	0.91
59.喉に異物感がある.	1.76	1.12	51.30	2462.50	44.63	2097.50	-1.31	0.19	98.48	4037.50	90.79	12982.50	-0.92	0.36
特禀体質	24.48	20.34	50.64	2430.50	45.31	2129.50	-0.95	0.35	93.62	3838.50	92.18	13181.50	-0.15	0.88
60.風邪ではないのに、くしゃみがでる.	2.07	1.12	49.25	2364.00	46.72	2196.00	-0.47	0.64	93.43	3830.50	92.23	13189.50	-0.13	0.89
61.日常的な鼻づまりや鼻水.	2.01	1.20	46.13	2214.00	49.91	2346.00	-0.73	0.47	99.06	4061.50	90.62	12958.50	-0.96	0.34
62.季節・温度・匂いの変化に伴う咳き込み.	1.94	1.11	46.00	2208.00	50.04	2352.00	-0.78	0.44	84.28	3455.50	94.86	13564.50	-1.21	0.23
63.アレルギー反応がある(薬、食物、匂い、花粉、季節変化) .	2.22	1.44	52.58	2524.00	43.32	2036.00	-1.80	0.07	84.20	3452.00	94.88	13568.00	-1.21	0.23
64.皮膚の一部に痒みを伴う赤みができ、しばらくすると消える事がある.	1.72	1.08	48.28	2317.50	47.71	2242.50	-0.12	0.91	99.39	4075.00	90.52	1		

4. 高齢者の五情反応は中医体質と関連がある

「高齢者の五情反応は中医体質と関連がある」という仮説を検証するために、五情反応の得点と中医体質をKruskal Wallisのカイ2乗検定、Pearson相関係数、多変量重回帰分析を用いて検討した。結果は下記の通りである。

(1) 中医体質により五情反応の得点が異なる

研究対象者を中医体質の平和体質、陽虚体質、気虚体質、陰虚体質、痰湿体質、湿熱体質、血瘀体質、気鬱体質、特禀体質の9群に分け、五情反応の得点の各群間の違いを、Kruskal Wallisのカイ2乗検定を用いて検討した。結果を表5-1に示した。各項目の平均ランクは、五情的情緒反応総得点で有意差が認められた ($p < 0.05$)。五つの情緒の中、【喜】情緒、【思】情緒、【憂】情緒、【恐】情緒について9群間に有意差が認められた ($p < 0.05$)。

(2) 各情緒と中医各体質の相関分析

五情反応と中医体質の関連性を検証するために、各情緒及び五情反応の総得点と中医体質をPearson相関係数で分析した。その結果を表5-2に示した。

平和体質と【怒】情緒・【思】情緒・【憂】情緒・【恐】情緒および五情反応総得点の間に有意な正の相関が認められた ($p < 0.01$)。そのうち、平和体質と【思】情緒 ($\gamma = 0.49$)・【憂】情緒 ($\gamma = 0.59$)・【恐】情緒 ($\gamma = 0.51$)・五情反応総得点 ($\gamma = 0.60$)の間に有意なやや強い正の相関が認められた ($p < 0.01$)。平和体質と【怒】情緒 ($\gamma = 0.34$)の間に有意なやや弱い正の相関が認められた ($p < 0.01$)。

陽虚体質と各情緒および五情反応総得点の間に有意な負の相関が認められた ($p < 0.01$)。そのうち、陽

虚体質と【憂】情緒 ($\gamma = -0.42$)・情緒反応総得点 ($\gamma = -0.45$)の間に有意なやや強い負の相関が認められた ($p < 0.01$)。陽虚体質と【恐】情緒 ($\gamma = -0.37$)・【思】情緒 ($\gamma = -0.36$)・【怒】情緒 ($\gamma = -0.22$)・【喜】情緒 ($\gamma = -0.23$)の間に有意なやや弱い負の相関が認められた ($p < 0.01$)。

気虚体質と【憂】情緒 ($\gamma = -0.42$)・【恐】情緒 ($\gamma = -0.42$)および五情反応総得点 ($\gamma = -0.46$)の間に有意なやや強い負の相関が認められた ($p < 0.01$)。気虚体質と【怒】情緒 ($\gamma = -0.28$)・【思】情緒 ($\gamma = -0.36$)の間に有意なやや弱い負の相関が認められた ($p < 0.01$)。

陰虚体質と【思】情緒 ($\gamma = -0.22$)・【恐】情緒 ($\gamma = -0.26$)および五情反応総得点 ($\gamma = -0.23$)の間に有意なやや弱い負の相関が認められた ($p < 0.01$)。

痰湿体質と【思】情緒 ($\gamma = -0.30$)・【憂】情緒 ($\gamma = -0.36$)・【恐】情緒 ($\gamma = -0.34$)・五情反応総得点 ($\gamma = -0.36$)の間に有意なやや弱い負の相関が認められた ($p < 0.01$)。

湿熱体質と【思】情緒 ($\gamma = -0.23$)・【憂】情緒 ($\gamma = -0.27$)・五情反応総得点 ($\gamma = -0.25$)の間に有意なやや弱い負の相関が認められた ($p < 0.01$)。

血瘀体質と【思】情緒 ($\gamma = -0.33$)・【憂】情緒 ($\gamma = -0.32$)・【恐】情緒 ($\gamma = -0.29$)・五情反応総得点 ($\gamma = -0.32$)の間に有意なやや弱い負の相関が認められた ($p < 0.01$)。

気鬱体質と【怒】情緒・【思】情緒・【憂】情緒・【恐】情緒および五情反応総得点の間に有意な負の相関が認められた ($p < 0.01$)。そのうち、気鬱体質と【思】情緒 ($\gamma = -0.54$)・【憂】情緒 ($\gamma = -0.51$)・【恐】情緒 ($\gamma = -0.50$)・五情反応総得点 ($\gamma = -0.55$)

表 5-1 各情緒反応によるによる中医体質の違い

	ALL		平均ランク									Kruskal Wallis	
	MEAN	SD	1. 平和 体質 N=70	2. 陽虚 体質 N=41	3. 気虚 体質 N=10	4. 陰虚 体質 N=18	5. 痰湿 体質 N=7	6. 湿熱 体質 N=3	7. 血瘀 体質 N=19	8. 気鬱 体質 N=7	9. 特禀 体質 N=9	χ^2	P
【怒】情緒の得点	12.12	1.78	102.59	78.59	101.65	116.64	70.14	85.33	84.89	56.00	83.22	15.05	0.06
【喜】情緒の得点	10.51	1.71	108.02	68.55	97.50	84.97	93.07	100.83	86.34	77.36	111.94	17.39	0.03
【思】情緒の得点	11.67	2.40	114.68	75.98	79.20	88.39	63.57	89.00	81.79	35.79	108.67	28.91	<.001
【憂】情緒の得点	11.58	2.20	116.24	69.24	82.90	113.17	57.07	64.50	71.55	38.14	106.50	40.97	<.001
【恐】情緒の得点	11.71	2.05	114.20	79.68	87.20	93.14	55.00	81.33	80.16	33.86	91.28	27.99	<.001
情緒反応総得点	57.59	7.37	120.36	67.52	82.75	99.86	52.00	83.50	76.29	30.86	102.39	44.52	<.001

表 5-2 各情緒と中医各体質の相関関係

Pearson の相関係数	【怒】情緒 の得点	【喜】情緒 の得点	【思】情緒 の得点	【憂】情緒 の得点	【恐】情緒 の得点	情緒反応総 得点
平和体質点数	0.34**		0.49**	0.59**	0.51**	0.60**
陽虚体質点数	-0.22**	-0.23**	-0.36**	-0.42**	-0.37**	-0.45**
気虚体質点数	-0.28**		-0.36**	-0.42**	-0.42**	-0.46**
陰虚体質点数			-0.22**		-0.26**	-0.23**
痰湿体質点数			-0.30**	-0.36**	-0.34**	-0.36**
湿熱体質点数			-0.23**	-0.27**		-0.25**
血瘀体質点数			-0.33**	-0.32**	-0.29**	-0.33**
気鬱体質点数	-0.20**		-0.54**	-0.51**	-0.50**	-0.55**
特禀体質点数			-0.30**	-0.30**	-0.30**	-0.33**

** 相関係数は 1% 水準で有意 (両側)。

の間に有意なかなり強い負の相関が認められた ($p < 0.01$)。気鬱体質と【怒】情緒 ($\gamma = -0.20$) の間に有意なやや弱い負の相関が認められた ($p < 0.01$)。

特禀体質と【思】情緒 ($\gamma = -0.30$)・【憂】情緒 ($\gamma = -0.30$)・【恐】情緒 ($\gamma = -0.30$)・五情反応総得点 ($\gamma = -0.33$) の間に有意なやや弱い負の相関が認められた ($P < 0.01$)。

(3) 情緒反応は中医体質の種類に関係する

各体質の項目数が異なり、合計点数が異なるため、仮説を検証するために各体質の得点を標準化した。各体質を独立変数とし、五情の情緒反応総得点及び各情緒を従属変数とする強制投入法で多変量重回帰分析を行った。

①五情の情緒反応総得点と中医体質の回帰分析

各体質を独立変数とし、五情反応総得点を従属変数とする強制投入法で多変量重回帰分析を行った結果を表 6-1 示した。9 種類の中医体質による情緒反応総点数への影響に関して、平和体質 ($\beta = 0.41$) と気鬱体質 ($\beta = -0.32$) は「情緒反応総得点」への影響要因となったが ($p < 0.01$)、他の 7 種類の体質は情緒反応総得点への影響要因にはならなかった。

②【怒】情緒と中医体質の回帰分析表

各体質を独立変数とし、【怒】情緒を従属変数とする強制投入法で多変量重回帰分析を行った結果を表 6-2 示した。平和体質 ($\beta = 0.33$) は【怒】情緒への影響要因となった ($p = 0.01$) が、他の 8 種類の体質は【怒】情緒への影響要因にはならなかった。

③【喜】情緒と中医体質の回帰分析

各体質を独立変数とし、【喜】情緒を従属変数とする強制投入法で多変量重回帰分析を行った結果を表 6-3 に示した。陽虚体質 ($\beta = -0.26$) は【喜】情緒への影響要因となったが ($p = 0.02$)、他の 8 種類の体質は【喜】情緒への影響要因にはならなかった。

④【思】情緒と中医体質の回帰分析

各体質を独立変数とし、【思】情緒を従属変数とする強制投入法で多変量重回帰分析を行った結果を表 6-4 示した。平和体質 ($\beta = 0.27$) と気鬱体質 ($\beta = -0.44$) は【思】情緒への影響要因となったが ($p \leq 0.01$)、他の 7 種類の体質は【思】情緒への影響要因にはならなかった。

⑤【憂】情緒と中医体質の回帰分析

各体質を独立変数とし、【憂】情緒を従属変数とする強制投入法で多変量重回帰分析を行った結果を表 6-5 示した。平和体質 ($\beta = 0.47$)・陰虚体質 ($\beta = 0.21$)・気鬱体質 ($\beta = -0.27$) は【憂】情緒への影響要因となったが ($p \leq 0.01$)、他の 6 種類の体質は【憂】情緒への影響要因にはならなかった。

⑥【恐】情緒と中医体質の回帰分析

各体質を独立変数とし、【恐】情緒を従属変数とする強制投入法で多変量重回帰分析を行った結果を表 6-6 示した。平和体質 ($\beta = 0.28$) と気鬱体質 ($\beta = -0.32$) は【恐】情緒への影響要因となったが ($p \leq 0.01$)、他の 7 種類の体質は【恐】情緒への影響要因にはならなかった。

表 6-1 五情反応総得点と中医体質の回帰分析

	非標準化係数B	標準誤差	標準化係数 β	T	P
平和体質点数	0.18	0.04	0.41	4.36	<.001
陽虚体質点数	-0.04	0.03	-0.13	-1.58	0.12
気虚体質点数	-0.01	0.05	-0.01	-0.14	0.89
陰虚体質点数	0.06	0.03	0.15	1.83	0.07
痰湿体質点数	0.00	0.04	0.01	0.11	0.92
湿熱体質点数	0.01	0.04	0.02	0.25	0.80
血瘀体質点数	0.02	0.04	0.06	0.64	0.52
気鬱体質点数	-0.13	0.04	-0.32	-3.44	<.001
特禀体質点数	0.00	0.03	-0.01	-0.06	0.95

従属変数 情緒反応総得点

表 6-2 【怒】情緒と中医体質の回帰分析

	非標準化係数B	標準誤差	標準化係数 β	T	P
平和体質点数	0.03	0.01	0.33	2.88	0.01
陽虚体質点数	0.00	0.01	-0.01	-0.06	0.95
気虚体質点数	-0.01	0.01	-0.09	-0.73	0.47
陰虚体質点数	0.01	0.01	0.09	0.91	0.36
痰湿体質点数	0.00	0.01	0.04	0.32	0.75
湿熱体質点数	-0.01	0.01	-0.08	-0.75	0.46
血瘀体質点数	0.02	0.01	0.15	1.40	0.16
気鬱体質点数	0.00	0.01	0.01	0.12	0.91
特禀体質点数	-0.01	0.01	-0.11	-1.14	0.26

従属変数 【怒】情緒の得点

表 6-3 【喜】情緒と中医体質の回帰分析

	非標準化係数B	標準誤差	標準化係数 β	T	P
平和体質点数	0.01	0.01	0.11	0.89	0.37
陽虚体質点数	-0.02	0.01	-0.26	-2.45	0.02
気虚体質点数	0.00	0.01	-0.01	-0.07	0.94
陰虚体質点数	0.01	0.01	0.12	1.17	0.24
痰湿体質点数	0.00	0.01	0.05	0.35	0.73
湿熱体質点数	0.01	0.01	0.08	0.72	0.47
血瘀体質点数	-0.01	0.01	-0.05	-0.45	0.65
気鬱体質点数	0.00	0.01	-0.03	-0.23	0.82
特禀体質点数	0.00	0.01	0.04	0.38	0.70

従属変数 【喜】情緒の得点

表 6-4 【思】情緒と中医体質の回帰分析

	非標準化係数B	標準誤差	標準化係数 β	T	P
平和体質点数	0.04	0.01	0.27	2.66	0.01
陽虚体質点数	-0.01	0.01	-0.07	-0.79	0.43
気虚体質点数	0.01	0.02	0.04	0.33	0.74
陰虚体質点数	0.01	0.01	0.08	0.88	0.38
痰湿体質点数	0.01	0.01	0.07	0.61	0.54
湿熱体質点数	0.00	0.01	0.00	-0.03	0.97
血瘀体質点数	0.00	0.01	0.00	0.01	0.99
気鬱体質点数	-0.06	0.01	-0.44	-4.50	<.001
特禀体質点数	0.01	0.01	0.04	0.46	0.65

従属変数 【思】情緒の得点

表 6-5 【憂】情緒と中医体質の回帰分析

	非標準化係数B	標準誤差	標準化係数 β	T	P
平和体質点数	0.06	0.01	0.47	4.90	<.001
陽虚体質点数	-0.01	0.01	-0.13	-1.57	0.12
気虚体質点数	0.01	0.01	0.07	0.62	0.54
陰虚体質点数	0.02	0.01	0.21	2.62	0.01
痰湿体質点数	-0.01	0.01	-0.05	-0.48	0.64
湿熱体質点数	-0.01	0.01	-0.04	-0.47	0.64
血瘀体質点数	0.01	0.01	0.04	0.49	0.62
気鬱体質点数	-0.03	0.01	-0.27	-2.85	0.01
特禀体質点数	0.00	0.01	0.03	0.41	0.69

従属変数 【憂】情緒の得点

表 6-6 【恐】情緒と中医体質の回帰分析

	非標準化係数B	標準誤差	標準化係数 β	T	P
平和体質点数	0.03	0.01	0.28	2.75	0.01
陽虚体質点数	0.00	0.01	-0.03	-0.31	0.76
気虚体質点数	-0.01	0.01	-0.08	-0.67	0.50
陰虚体質点数	0.00	0.01	0.03	0.36	0.72
痰湿体質点数	-0.01	0.01	-0.06	-0.53	0.60
湿熱体質点数	0.02	0.01	0.14	1.39	0.17
血瘀体質点数	0.01	0.01	0.07	0.68	0.50
気鬱体質点数	-0.04	0.01	-0.32	-3.22	0.00
特禀体質点数	0.00	0.01	-0.03	-0.39	0.69

従属変数 【恐】情緒の得点

IV. 考察

本研究では、日本の地域で暮らす高齢者において、五情反応と中医体質の関連性を明らかにするために調査を行い、その関連性を明らかにした。本研究の結果を踏まえ、得られた看護への示唆、本研究の限界および今後の課題について下記の通りに考察した。

1. 研究対象の基本特徴

本研究では、配布した調査票の 61.3% を回収した。本研究の対象者は地域で暮らす高齢者であり、回収率が 61.3% に達したことは、高齢者が健康や疾病の早期予防などに関心が高いことが要因の一つと考えられる。一方、本研究の五情反応と中医体質の質問項目は合計 80 個であり、質問項目数が多いため、高齢者の負担に配慮すべきと考えられる。

本研究の対象者は 184 名で、そのうち男性は 41 名 (22.3%) で、女性は 143 名 (77.7%) であった。対象者の年齢は 65 歳から 97 歳まで、平均年齢は 78.9 (± 6.87) 歳であった。総務省統計局によると、2020 年の

日本の平均寿命は男性 81.64 歳、女性 87.74 歳である。本調査に参加した高齢者は日本の平均寿命より若かった。

本研究の対象者の中医体質分布において、平和体質は 70 名 (38.0%) であった。陳ら (2016) の研究では、中国の 65 歳以上の地域住民における平和体質は 25.55% を占めていた。胡ら (2018) の調査では 65 歳以上の地域住民における平和体質は 29.4% を占めていることがわかった。これらの値は本研究対象者の平和体質の割合より低い。気候、生活習慣、そして民族的な遺伝的背景などが影響している可能性が考えられる。

2. 情緒反応と中医体質

本研究では、相関と回帰分析を用いて、平和体質が五情反応に対して正の影響を与えることが明らかになった。張 (2020) が報告した、平和体質とうつ症状の間に有意な負の相関があるという結果には矛盾しない。

さらに、偏向体質のうちに気鬱体質は、【思】・【憂】・

【恐】及び五情全体の情緒反応に対しては、かなり強い負の相関があることが明らかになった。気鬱体質以外では、陽虚体質も五情反応に対してやや強い負の影響があることが明らかになった。これらの結果は、蔡（2018）の調査から得られた、気虚体質、血瘀体質、気鬱体質がうつ病の危険因子であることや、張（2020）の研究結果の、うつ病と不眠症患者に最も多い体質が気鬱体質、気虚体質、陽虚体質であることと一致している。また、平和体質とうつ症状の負の相関に関する結果も一致している。

徐ら（2010）は、五情看護、心理療法が気鬱体質を改善できることを明らかにした。これらの研究から、【思】・【憂】・【恐】という情緒の異常を改善することが気鬱体質の改善を促し、それに伴いうつ症状も改善される可能性がある。また、平和体質は五情反応の保護因子であると考えられる。中国では、中医学に基づいた五情看護や心理療法に関する研究が進んでいるが、日本においてはこれらの研究はほとんど行われてこなかった。今後高齢者の健康を増進するために、中医学に基づいた数多くの研究の蓄積が必要である。

V. 研究の限界と課題

1. 本調査研究は便宜的標本抽出法により、K市U区の地域で暮らす65歳以上の住民184名を対象としたため、日本全国の高齢者の特徴として一般化するためには、研究対象地域を広くし、研究対象者を増やした調査研究が必要である。
2. 本研究において、日本の地域で暮らす高齢者の、中医五情の五情反応と中医体質との関連性を明らかにしたことで、情緒コントロールや情緒ケアなどの介入により、中医体質を改善し、疾患が予防できる可能性が示された。しかし、本研究は横断的調査研究であるため、情緒コントロールなどの介入による中医体質の改善の効果については、日々の生活に介入する研究や、コホートの追跡調査などのような縦断的研究がさらに必要である。

VI. 結論

日本が高齢社会に向けて進むにつれ、高齢者の健康はますます注目されており、健康寿命の延伸、健康格

差の縮小、生活習慣病・精神障害などを含む老年性疾患の予防や早期発見は重要な課題になっている。今回、中医学の形神一体観の視点から、健康促進、疾病予防の示唆を得たいと考え本研究に取り組み、下記の研究成果を得た。

1. 9種類の中医体質のうち、平和体質は五情反応に対して強い正の影響を持ち、気鬱体質は五情反応に対して強い負の影響を持つことを明らかにすることができた。すなわち、気鬱体質を改善することにより五情反応を改善することができ、また、五情反応を改善することにより気鬱体質を改善することができると考えられる。気鬱体質以外にも、陽虚体質、気虚体質も五情反応に関連している中医体質である。

2. 以下の二つ仮説を実証することができた。

- (1) 仮説1：「高齢者の五情反応は中医体質と関連がある。」

本研究では、平和体質は情緒反応（ $\gamma = 0.60$ ）及び、【怒】の情緒（ $\gamma = 0.34$ ）、【思】の情緒（ $\gamma = 0.49$ ）、【憂】の情緒（ $\gamma = 0.59$ ）、【恐】の情緒（ $\gamma = 0.34$ ）との間に有意な正の相関を認めた。

気鬱体質は【思】の情緒（ $\gamma = -0.54$ ）・【憂】の情緒（ $\gamma = -0.51$ ）・【恐】の情緒（ $\gamma = -0.50$ ）及び五情の情緒反応総得点（ $\gamma = -0.55$ ）の間に有意な強い負の相関を認めた（ $p < 0.01$ ）。

気鬱体質と【怒】情緒・【思】情緒・【憂】情緒・【恐】情緒および五情の情緒反応の間に有意な負の相関が認められた（ $P < 0.01$ ）。そのうち、気鬱体質と【思】情緒（ $\gamma = -0.54$ ）・【憂】情緒（ $\gamma = -0.51$ ）・【恐】情緒（ $\gamma = -0.50$ ）・情緒反応（ $\gamma = -0.55$ ）の間に有意な強い負の相関を認めた（ $P < 0.01$ ）。

陽虚体質と陽虚体質と【思】情緒（ $\gamma = -0.36$ ）・【憂】情緒（ $\gamma = -0.42$ ）・【恐】情緒（ $\gamma = -0.37$ ）・五情の情緒反応総得点（ $\gamma = -0.45$ ）の間に有意な負の相関を認めた（ $p < 0.01$ ）。

- (2) 仮説2：「五情反応は中医体質の種類に関係する。」

本研究では、平和体質は【怒】・【思】・【憂】・【恐】の情緒及び五情反応へ影響要因（ $p \leq 0.01$ ）、気鬱体質は【思】・【憂】・【恐】情緒及び五情反応へ

影響要因 ($p \leq 0.01$)、陽虚体質は【喜】の情緒へ有意な影響要因 ($p = 0.02$) になることを検証できた。

利益相反

本研究に関連し、開示すべき利益相反はない。

謝辞

本研究にご協力いただきました全ての皆様に心より感謝申し上げます。本研究調査中、ご協力くださいました京都光華女子大学地域連携推進センターの皆様、右京区地域介護予防推進センターの堀智子先生、京都光華女子大学健康科学部医療福祉学科の関道子先生、京都光華女子大学大学院看護学研究科修士の大槻幾子様に深くお礼申し上げます。本研究は、鄒 佼佼が京都光華女子大学大学院看護学研究科修士課程で行なった研究を基としており、また、京都光華女子大学基幹研究「認知症の予防と共生に向けた社会実装研究」の一部であることを記します。

【引用文献】

蔡东滨. (2018). 抑郁焦虑障碍与中医体质的相关性研究 [硕士, 广州中医药大学]. https://kns.cnki.net/kcms/detail/detail.aspx?dbcode=CMFD&dbname=CMFD201901&filename=1018271144.nh&uniplatform=NZKPT&v=i_6ldq2b5lvTs9pwCJ50u3B0Q5PIUonlH9YipqU7Pp3zStaQScQZ3czhJJ8fD3qg

陈建峰, 肖月, 胡萍, 朱玉琴, & 沈静. (2016). 上海市某社区 65 岁以上老年人中医体质调查分析. 西部中医药, 29 (8), 71–75.

羽山由美子. (1989). 看護研究の進め方とその実際 調査研究法を中心に. 看護, 41 (5), 68–75.

胡庆, 安阳, 余娜, 董瑛, 徐琰, 龙梅, 李国珍, 刘玉娜, & 肖一明. (2018). 贵阳市云岩区 65 岁以上老年人中医体质分布情况调查. 贵阳中医学院学报, 6.

令和 5 年版 障害者白書 全文—内閣府. (2023). (2023 年 7 月 1 日閲覧) <https://www8.cao.go.jp/shougai/whitepaper/r05hakusho/zenbun/index-pdf.html>

西村勝治. (2019). 高齢者の心疾患と認知障害・うつ. 心臓, 51 (11), 1212–1216. <https://doi.org/10.11281/shinzo.51.1212>

Sultzer, D. L., Levin, H. S., Mahler, M. E., High, W. M., & Cummings, J. L. (1993). A comparison of psychiatric symptoms in vascular dementia and Alzheimer's disease. The American Journal of Psychiatry, 150 (12), 1806–1812. <https://doi.org/10.1176/ajp.150.12.1806>

Dementia, WHO (2023) (2023 年 7 月 1 日閲覧) <https://www.who.int/news-room/fact-sheets/detail/dementia>

呉小玉. (2020). 中医看護の自然生命理論 現代看護への活用 日本看護協会出版会 150

呉小玉, 鄒佼佼, 何紫秋, 黄優鷗, 大槻幾子, 清水房枝, & 細川昌則. (2023). 中医学の形神一体観に基づく「中医五情 (怒・喜・思・憂・恐) の測定尺度」の開発: 軽度認知障害 (MCI) の予防に焦点を当てる. 看護 = Journal of the Japanese Nursing Association : 日本看護協会機関誌, 75 (6), 76–82.

Wu, X., Zou, J., He, Z., Huang, Y., Zhou, B., Zhou, Y., Kodama, J., & Lu, Y. (2023). Measurement of Five Emotions Defined by Traditional Chinese Medicine With a Focus on Preventing Mild Cognitive Impairment. American Journal of Alzheimer's Disease & Other Dementias®, 38, 15333175231206022. <https://doi.org/10.1177/15333175231206022>

夏丽. (2014). 中医体质与情志病辨析. 云南中医中药杂志, 35 (5), 23–26.

薛丽飞, & 黎敬波. (2011). 老年抑郁症证候与中医体质相关性研究. 新中医, 43 (6), 8–10.

蓝亚燕, 莫俊, & 孟成. (2020). 中医情志护理对血管性痴呆患者焦虑及抑郁情绪的影响. 新中医, 52 (21), 120–123. <https://doi.org/10.13457/j.cnki.jncm.2020.21.036>

邵庭芳, 陈萍, 陈秋华, 林烁, & 张泓. (2017). 桌面小组游戏对老年痴呆病人情绪管理的效果研究. 全科护理, 15 (12), 1499–1501.

徐新平, 严正松, 吴丽娟, 方桂珍, 王苗娟, 陈丹, & 孙明洪. (2010). 中医情志调摄对气郁体质的干预研究和评价. 浙江中医杂志, 45 (07), 490–491.

- 王琦. (2005). 9 种基本中医体质类型的分类及其诊断表述依据. 北京中医药大学学报, 04, 1-8.
- 王琦. (2008). 中医体质三论. 北京中医药大学学报, 10, 653-655.
- 张少婷. (2020). 抑郁症伴失眠中医体质、艾森克人格及相关性研究 [硕士, 北京中医药大学]. <https://doi.org/10.26973/d.cnki.gbjzu.2020.000695>
- 中医体质分类与判定 (ZYYXH/T157-2009). (2009). 世界中西医结合杂志, 4 (04), 303-304.
- 朱燕波, 折笠秀樹, 上馬場和夫, 許鳳浩, & 王き. (2008). 体質に関する CCMQ 質問票日本語版の臨床開発とその妥当性の検証. 日本東洋医学雑誌, 59 (6), 783-792.

